令和7年度　社会福祉法人ポレポレ　事業報告書

（各事業所のまとめ）

就労継続支援Ｂ型事業所　ポレポレハウス

1　利用者　定員20名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
開所日数	22	21	20	23	17	21	23	22	18	21	20	21	252
延利用者数	440	417	375	434	320	388	428	391	308	379	372	383	4635
1日平均利用者数	20	19.8	18.7	18.9	18.8	18.5	18.6	17.7	17.1	18	18.6	18.2	18.4

登録利用者数　　令和8年3月現在（22 名）

障がい程度区分　区分1（0人）区分2（1人）区分3（ 7 人）区分4（5 人）区分5（2 人）区分6（ 1人）

区分判定なし（4 人

1事業目的

利用者が自立した日常生活や社会生活を営めるよう、就労の機会を提供し、生産活動や多様な活動を通じて知識・能力の向上を図るとともに、やりがいや達成感を持てる日々の実現を目指しました。

2. 基本方針に基づく取り組みと成果

（1）利用者のやりがいづくり

- 食品班
  - お好み焼きの枚数を1日10枚ほど増やすことで月40000円売上アップに繋げやりがいを感じ、また工賃にも繋げることが出来ました。

    - 焼きそば・惣菜班ではレシピと一日の流れを分かりやすく可視化により作業が安定し、みたらし班では焼き技術の習得した利用者が増え　４月からの店舗での焼き数増加の見通しが出来た。
- 工房班
    - 内職作業を丁寧に遂行し、利用者の得意分野を発揮できる場を提供しました。
    - 作業環境整備により、安全で効率的な取り組みが可能となりました。

（2）販売活動と工賃アップ

- 工賃の取り組み
    - 販路拡大とスイーツ販売の好調により工賃アップを実現。
    - 内職が安定的にあり工賃に確実につなげることができた。
    - 今年度の工賃は23006円　基本報酬単価に変更が無いようにし、また利用者には特別工賃を支給し40000円近い方もみえ、保護者からも感謝の言葉をいただいた。

（3）新築移転に向けた準備

- 新施設のイメージを利用者・職員で共有し、意見交換を重ねました。
- 営業日を「火曜日～土曜日」に変更。※土曜日は利用者が習い事等で減少傾向。
- 3月後半から引っ越しを初め、4月1日は移動完成。

（4）余暇活動

- 実施回数を「月２回 → 月１回」に変更。
- 音楽療法や外出レクリエーションを継続し、社会性の向上や親睦を深めました。
- 喫茶店は貸し切りでのんびりとした時間を過ごせた
- 研修旅行は静岡で『うなぎの養殖について』を研修し、そのあとは浜名湖パルパルで遊園地を満喫しました。
- カラオケ大会は地域で社交ダンスとカラオケを営業されている『おし花』で行い地域に方に障害者を理解して頂けるよい機会になりました。

（5）文化的活動の推進（法人理念⑤の実現）

- ポレポレまつりや日進街テラスイベント参加において、職員と利用者が一丸となり「ソーラン節」を披露予定
- 法人理念⑤「障害者の文化的で豊かな生き方を応援する」を具体的に実現できた取り組みとなりました

（6）職員の支援力向上

- 職員会議で「スペシャルラーニング」を活用した研修を継続。
- 「本人意向」や「意思決定支援」を中心に事例を共有し、支援力を強化しました。
- 毎月に2回のミーティングでは職員が発言しやすい環境を整えることで、支援強化につながる

3. 事業内容（実績）

- 利用定員：20 名（平均利用 19 名を目標）
- 送迎：自力通所と送迎車で対応
- 営業日：火曜日～土曜日（祝日営業あり）
- 営業時間　8時半から17時半
- サービス提供時間　10時～15時半
- 所在地：日進市五色園三丁目 509 番地
- 協力医療機関：愛知国際病院
- 年間行事：新人歓迎会、避難訓練、あじさいコンサート、マルシェ、利用者研修旅行、ポレポレまつり、クリスマス会　等

4. 今年度の重点取り組みと進捗

1. 定員確保：平均 18.5 名の利用を目標に、安定した利用を実現しました。
2. 工房班の充実：職員配置を見直し、支援力を強化しました。
3. 事業所移転計画：利用者と職員の動線を考慮した設備案を検討中です。
4. 職員の健康と業務改善：職員が働きやすい環境づくりを推進しました。
5. 基本報酬のランクアップおよび福祉専門員加算の申請を行いました。
6. 研修強化：短時間研修を継続し、障害理解や支援力の向上を図りました。
7. 文化活動の実現：「ソーラン節」発表を通じ、理念⑤の実践を達成しました。

5. 課題と今後の展望

- 工賃アップを持続的に進めるための安定的な販路確保。

- 工賃アップで基本報酬のアップに努める
- 職員の人材確保と育成を通じた支援力の向上。
- 法人理念に基づき、地域社会とともに「障害者の文化的で豊かな生活」を実現する取り組みの継続。
- 令和8年度は保護者との交流を深める。
- 介拓プロジェクトからの学生の（松村裕句さん現在）の受け入れの形を整える。

生活介護事業　ハーモニー

1. 利用者状況 （定員 20 名）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開所日数		22	20	22	23	17	22	23	19	22	20	20	22	252
延利用者数	区分 4	46	36	65	63	50	63	71	53	62	45	60	49	663
	区分 5	152	139	171	174	111	141	154	130	136	137	132	154	1731
	区分 6	185	168	183	187	140	195	199	165	180	177	179	193	2151
	総数	383	343	419	424	301	399	424	348	378	359	371	396	4545
1日平均利用者数		17.4	17.2	19	18.4	17.7	18.1	18.4	18.3	17.2	18	19	18	18

・今年度新規契約者　4 月：2 名、6 月：2 名、8 月：1 名

・令和 8 年 3 月 31 日現在　登録者数 23 名（区分 4：4 名、区分 5：7 名、区分 6：12 名）

平均障害支援区分　5.3

区分 5・6 利用者割合　83%

区分 6 利用者割合　　52%

男性利用者　13 名　　女性利用者 10 名

・1 日平均利用者　18 人

・令和 7 年 8 月～令和 8 年 1 月　1 名家庭の都合でロングショートを利用していたため利用が

なかった

障害種別人数

障害種別	精神障害	知的障害 （自閉症含む）	身体障害	合計
利用者（人）	1	20	2	23

2. 活動報告

①利用者それぞれの居場所を確保

別棟を設置したことにより、強度行動障害の方で集団活動が難しい方の居場所を確保することができた。別棟で過ごす利用者、本棟で過ごす利用者それぞれが落ち着いて過ごすことができるようになった。

②個々の能力に合わせた活動プログラムの提供

別棟で過ごす利用者は集団活動が難しい反面、閉鎖的な空間で過ごすことになり、他者と関わる機会が減ってしまった。そこで、職員向けのカフェを営業することを考え、利用者とコーヒーを淹れる練習を始めたところ、すぐにできるようになり練習を始めて1か月後にはカフェをオープンすることができた。

その他、毎週月曜日のおにぎり定食づくり、喫茶のモーニングの付け合わせのクッキーづくり等、利用者ができそうなことを作業として取り入れ始め、作業の幅が広がってきた。

③他事業所との連携強化

法人内に相談事業所 Refine が開設し、ハーモニーの利用者も 6 割ほど Refine に異動した。相談支援事業の事務所がハーモニー内にあることから、相談員と現場職員の情報共有が密にできるようになり、利用者さん1人1人の支援をより深めることができるようになった。

④虐待防止の強化

強度行動障害の利用者に対して虐待をしてしまうケースがあった。事業所として日進市虐待防止センターに通報し、身体的虐待と心理的虐待があったと認定された。この利用者に対しては常に2名の職員で支援に当たっていたが、職員同士のコミュニケーション不足、支援の共有がうまくできていなかったことが要因として考えられた。この利用者に関わらず、現在活動班ごとの支援になってしまっているため、ハーモニー全体として支援を共有できるよう、毎月の会議で支援の共有をするようにした。

3. 成果

①利用者の確保

昨年度に比べると 1 日平均利用者数が増え、18 名前後となった。新規利用者が 5 名入ったことに加え、昨年度お休みしがちだった利用者の利用が安定してきたことが影響している。

②環境設定

それぞれの利用者が落ち着いて過ごせる環境を提供し、持てる力を発揮できるようになった。週 1 日のカフェ、昼食作り、喫茶の仕込み等作業のバリエーションが増えたことで、利用者が選択して取り組めることが増えてきた。個々が役割を持って作業に取り組めるようになり、意欲的に取り組むことができるようになった。

③地域とのつながり

年 2 回のハーモニーマルシェを行い、6 月は近隣事業所の販売、愛知学院大学のよさこいサークル「常笑」による演舞、地域の自主防災の方にも来ていただき防災ブースを作っていただいた。3 月はそれに加え地域の農家さんや喫茶店にもブースを設けて販売をしていただいた。3 月末の防災訓練では折戸分団の方に来ていただき、消火活動の実演や災害時の話もしていただいた。地域とのつながりを広げることができた。

4. 見えてきた課題

①職員の確保

最大 18 名いた職員が、異動や退職で現在 13 名となっている。人員配置区分も 4 月当初は 1.7 人の利用者に対して 1 人の職員配置体制を取っていたが、令和 8 年 4 月時点では 2.5 人の利用者に対して 1 人の職員配置体制となっている。常勤職員の休憩時間が取れなくなったり、相談支援事業所 Refine の職員にもヘルプをお願いしている状況であるため、早急に職員を確保する必要がある。

②作業拠点の拡大

別棟を建てたことで、集団での活動が難しかった強度行動障害の方が職員と 1 対 1 で落ち着いて過ごせる環境ができた半面、完全防音の部屋ではないため、外にいる利用者の声が聞こえてしまいパニックになってしまうことを懸念し、他の利用者が気軽に外に出れない状況になってしまった。作業拠点を検討していかなければならない一方、現在の職員数では限界があるため、現在の職員数でも可能な支援方法を考えていかなければいけない。

③利用者の確保

現在 1 日平均利用者数は 18 名と、あと数名は確保したいと思っているが、現在いる利用者との相性や送迎の可否等もあるため、すぐに受け入れは難しい状況。可能な限り利用者は確保していきたい。

共同生活援助事業　なしの木ホーム

1.利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	28	28	28	31	359
延利用者数	区分2	30	31	30	31	30	30	31	30	28	28	28	31	358
	区分3	56	54	51	56	53	49	57	51	49	49	50	58	633
	区分4	58	59	59	62	56	59	61	60	53	54	55	60	696
	区分6	26	25	25	26	21	26	27	25	21	24	24	26	296
	総数	170	169	165	175	160	164	176	166	151	155	157	175	1983
平均(人)		5.6	5.4	5.5	5.6	5.1	5.4	5.6	5.5	5.3	5.5	5.6	5.6	5.5

・利用者数:6名(男性3名　女性3名)

・1日平均利用人数　5.5人

・現在営業日　365日(今年度のみ12月29日～1月3日まで休み)

2. 活動報告

①年末年始以外を開所日とした。

休日の過ごし方は、利用者自身が選択し過ごす姿はあった。

自分らしい時間を過ごしていた。

【T さん】保護者が高齢のため、自宅に帰る事が困難であり、ご自身も理解しており自宅に帰る選択はされない。休日は支援者の買い物に同行しご自身が欲しい買い物をされる。また、移動支援をはじめ、月1回のヘルパーさんとのお出かけを楽しみにしている。

【M さん】休日は 1 泊だけ自宅に帰り、母親と過ごし色々な所に遊びに出かけている。1 日ホームで過ごす時は、クッキングを楽しみにしている。やりたい気持ちも豊富で手伝いを進んでやってくれている。

【N さん】月～土までホームで過ごし、週末は自宅に帰るルーティーを継続することで落ち着いてホームの生活ができている。障がいとしては重度ではあるが、自室で好きなテレビやご自分の iPad で動画を見て過ごしている。

【S さん】通院以外の休日はホームで過ごしている。平日は自室にいることがほとんどだが、休日はリビングに降りてきて、TV を見たりスマートフォンのゲームをして過ごしている。ご自身が欲しい物がある時は希望をメモにし伝えてくれる。主にお菓子や必要な身の回りの物。

【K さん】休日はホームで過ごす事をご自身で選択されている。休日は買い物、テレビ、おしゃべりで楽しんでいる。月に 1 回の移動支援もはじめ、出かける楽しみの 1 つになっている。料理をすることも好きで、疲れていないと手伝ってくれ、料理することを楽しんでいる。

【A さん】休日は自宅に帰る。ご家族で出かけることも多いし、お友達とのお出かけもできている。ホームでの過ごし方、休日の過ごし方が確立している。自立度は高い。次へのステップを考えていく時期にきている。

②健康な生活を守る支援

・12 月にインフルエンザが流行り、利用者 6 人中 4 人がインフルエンザになる。1 名以外が帰宅時
に発症するが 1 名がホームで発症し待機期間ホームで過ごす。感染されなかった利用者もホーム
で過ごすことで、感染症対策の難しさや見直しができた。

・昨年度より通院同行を行い、病状に把握ができた。

・個々にあった運動活動を提案し、実施できた。

・会議にて利用者の健康についての話し合いを行うことで、支援者、利用者ともに健康を意識できた。

③3月に保護者会を行った。

・食費・水光熱費・日用品費や家賃について実績を報告

・看護師による健康に関しての相談コーナーを作り、保護者から話を聞いた

④地域連携推進会議開催

1月28日（火）

利用者3名、保護者2名、職員1名、折戸区の住民1名、折戸区の民生委員1名、計8名で実施

ホームのリビングにて、4月から365日開所し、休日をホームで過ごすことになり利用者の状況説明災害時の話をする。保護者からは休日もホームで過ごすことができ安心している。本人も元気になり明るくなったと話があった。

3月25日（火）

利用者3名、保護者2名、職員1名、折戸区の住民1名、折戸区の民生委員1名、計8名で実施

4月に就労支援事業所 B 型ポレポレハウスが折戸町梨子ノ木に引っ越してくることに

なり、なしの木ホームから徒歩で通うことになった。この機会に、利用者たちが自ら地域に出かける（コンビニ、薬局など）ことができるように励まし、一層地域との関わりが増えていくことを期待したい。

新施設の見学を行う。

3. 成果

①年末年始以外を開所することができたことで、ご自宅に帰る事が困難な利用者・保護者から安心感を

感じているとの声が聞かれた。

②休日をホームで過ごす利用者たちが自ら考え行動する姿や協力や譲り合う姿が見られた。

休日の過ごし方（お買い物、掃除、洗濯、工作、散歩など）

③2名の利用者が移動支援を利用することにより、休日の過ごし方が豊かになったいる。

④訪問診療の充実。（内科・歯科・リハビリ）

内科2名　歯科3名　リハビリ2名

4. 見えてきた課題

①個々のライフスタイルに合わせた休日の過ごし方の構築。

一人一人休日の過ごし方が異なり、外出希望が出た場合意見が言える利用者に予定を合わせて

過ごす事になり、個々の充実した休日をどう確立していくかが今後の課題となる。

②年齢に対しての健康面でのサポート。

50代後半の利用者もおり、多方面でのケアーは必要。また、自宅に帰らない事により、地域での医療を受ける体制を整える必要性が出てきている。

③身辺自立に対しての細やかな支援の見える化。

親が見ていた身辺の事（衣類の交換、消耗品の交換、散髪など）をホームで見て行く仕組み作り

形にしていく。

④職員配置の見直し。

週1日勤務の職員が多く、メリット、デメリットの検証をしていく。

併設型短期入所事業　チャレンジホーム

1.利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用日数		30	31	30	31	31	30	31	30	28	28	28	31	359
延べ利用者数	区分3	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	8
	区分4	0	0	0	0	0	1	1	1	2	3	3	4	15
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	12	12	11	14	10	11	13	11	12	11	9	12	138
	実人数	4	4	6	5	5	6	6	6	7	7	7	7	8

・1日　定員　1名

・現在登録者16名

・定期利用者　7名

※利用者は区分5・6の方。本人の意向というよりご家族意向。

※体験希望者　4名

2.活動報告

①法人内の日中活動事業所を利用されている方のみ受け入れている。

②緊急時のご利用1件（保護者入院のため）。保護者不在対応による定期利用1件（水・木）。
宿泊訓練のための定期利用（毎週火曜日、第1，2，3、4、5金曜日、第3日曜日）。

③宿泊体験を目指して段階的な体験をしている。（見学⇒入浴⇒食事⇒泊まる）

④チャレンジホームの見学希望者の受け入れをした。

3.成果

①法人内の相談支援に保護者の希望を聞いて頂き、ホーム見学を行った。そのことのより、
今年度チャレンジ希望者が増加しており、徐々に曜日が埋まっていった。

②新規利用者を開始する前には、利用者の情報を収集し、職員と情報を共有することで、利
用者も落ち着いて利用者できている。

③チャレンジホームの利用状況を紙面で知らせることで、なしの木ホームの利用者が安心で
きた。

4.見えてきた課題

①利用者は落ち着いてチャレンジホームを利用していることを踏まえて、次へのステップに移

行できる

流れを作る時期になってきた。

②チャレンジホームの利用者が増えていく中で、なしの木ホーム利用者の生活リズムを壊さない配慮必

要。

③チャレンジホームの役割と目的をしっかり定め、相談支援とも連携し、保護者に理解してもらうことで

チャレンジホームの利用者が増えていくようにする。。

放課後等デイサービスえがお （げんきクラス）

1. 利用者状況

10 名定員

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開 所 日 数	22 (18/ 4)	21 (21 /0)	21 (20/ 1)	23 14/ 9)	18 (3/ 15)	22 (19/ 3)	22 (21/ 1)	20 19/ 1)	20 (16 / 4)	20 (18 / 2)	20 (18 / 2)	21 (14 / 7)	250 (201/ 49)
延べ利 用者数	234 189/ 45	236 236 / 0	238 233 / 5	250 166/ 84	177 8/16 9	232 223 /9	246 240 / 6	224 213/ 11	216 174 /42	218 199 /19	216 201 /15	22 7 149 / 78	2714 2391/ 323
1日 平均数	10	11	11	10	9	10	11	11	10	10	10	10	10

カッコ内（平日/休日）

【新規利用者】

新一年生　3名　三好特別支援学校1名　香久山小1名　長久手東小 1 名

【登録人数】 21名

（学年内訳）高校1年生　1名

小学生6年生1名、5年2名、4年生4名、

3年生4名2年生6名1年生 3 名

（市内内訳）日進市：16名　みよし市：1名　長久手市：4名

※新規 1 年生が3名入る。1名が週5日利用、1名が週4日利用　1名が2日利用。
※平均利用人数は 10 名。曜日によっては 15 名受け入れる曜日がある。
※夏休みだけ利用がない利用者がいるに対して夏休みだけ利用日数を増やす利用者もいる。
※どの月も 10 人前後の欠席者がいる。今期は 7 月に手足口病がはやりお休みが続いた。また、7 月、8 月猛暑日が続いたこともあり体調を崩す利用者が多かった。冬の時期にもインフルエンザや風邪でお休みが多かった。

2.　活動報告

・4 月に新一年生が 3 名入ってきたが、混乱することなく環境やお友達にもすぐに慣れ、げんきで落ち着いて過ごしている。
・6 月 29 日（土）利用者とともにあじさいコンサートに参加し、舞台に上がり歌を楽しんだ。
・7 月 15 日（月）三事業所合同行事として夏祭りを行い。7 名が参加し楽しんだ。
・夏休み、庭に大きなプールを 2 個だして、水遊びを毎日午後から行った。
・社会福祉協議会のボランティアサンタを依頼しクリスマス会を行った。
・祝日行事で名古屋港水族館に出かけた。
・お別れ遠足のお出かけでモリコロパークに出かけた。
・外部でのお買い物体験を行う事ができた。
・保育士は毎日勤務できる体制がつくれたので、活動に個別療育を取り入れた。はじめは取り組めない利用者もいたが夏休み以降、ほとんどの利用者が利用日に 15 分ほど個別療育を受けている。
・視覚的支援を充実させた。（予定表、配車表の見直しなど）
・NPO なかまの家主催のひかりの人々展に工作で取り組んだ作品を出展した。
・引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策（定期的な換気、手洗いうがいの徹底、備品等の消毒など）を活動中も意識し徹底して行った。
・6 月、10 月 11 月に保護者面談を実施する。学校の様子や家庭での過ごし方やげんきでの様子を話し、今ある課題や支援について話をした。
・毎月誕生会を行った。
・一人のてんかん発作を発症する児童にケガを負わせてしまった。事業所の対への親保護者からの不信感が寄せられ、対応に迫られた。

＜主活動の報告＞

工作・・桜の貼り絵、こいのぼり、母の日カード、兜作り、あじさいカタツムリ、父の日カード、傘とてるてる坊主、七夕、ペットボトルけん玉、ビニール傘アート、お月見うさぎ、ストローとん、ハロウィンハット、クリスマスリース、年賀状、思い出ア

ルバムなど季節に合わせた工作に取り組んだ。

クッキング・・毎週水曜日にその月に合わせたメニューを提供し、子供たちができる工程を考えおやつを作りした。

音楽活動・・楽器を用意し、子供たちの好きな曲で楽器演奏を楽しんだ。曲に合わせてダンスや体操を行った。

運動活動・・室内では鉄棒、マット、トランポリン、バランスボールなどで身体を動かした。庭では砂遊び、なわとび、鬼ごっこ、ボール遊びなどで身体を動かして活動した。

3. 成果

・今年度の新一年生は 3 名だったが、3 人とも大きな混乱のなくげんきの環境にすぐに慣れ活動できていた。

・週の活動は安定して提供できている。

・庭を活用して夏休みプール活動が充実してきた。

・中古だが送迎車両を購入した。

・施設に十分な指導訓練室や環境整備が整っているので安全に支援が出来、充実してきている。

・隣接している「えがお」と連携をとり送迎等の協力体制が作れた。

・閉所したなかよしの職員がげんきに移動し、職員の補充ができた。

・救命救急の研修を行った。

・ひまわり福祉会主催の研修の参加を職員に周知した。

・三事業所連携を取り、職員欠員などの補充に協力しあえた。

4. 見えてきた課題

・利用者の障害特性が様々なので、一人一人に合わせた療育内容を充実させると同時に皆が参加できるように集団活動も組み立てる必要がある。

・三好特別支援学校、瀬戸つばき支援学校、市内 4 ヶ所、長久手小と学校により下校時間が異なることから送迎に人手がいる。

・職員が欠勤になった時の補充職員の確保が難しい。（現在は出勤でない曜日の職員に声かけをして補っている。）

・その日の出勤職員が同じ時間に集まることが日々ないので、申し送りが人づてになり、情報共有が一斉にできないので、今後工夫が必要。

・年齢層が低い為、病欠で休むことが多い。そのことを踏まえた利用者確保が必要になる。

・施設が 4 年目になり、害虫や施設修繕がでてきているので環境整備を管理して

放課後等デイサービス えがお（えがおクラス）

（ 定員 10 名 ）

1. 利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数	22 (16 / 6)	21 (20 / 1)	22 (20 / 2)	23 (14 / 9)	17 (0 / 17)	23 (20 / 3)	23 (22 / 1)	19 (17 / 2)	20 (17 / 3)	20 (17 / 3)	20 (17 / 3)	22 (14 / 8)	252 (194 / 58)
延べ利用者数	242 (185/57)	231 (221/10)	232 (219/13)	247 (156/91)	163 (*/163)	235 (214/21)	245 (238/7)	181 (168/13)	215 (186/29)	201 (178/23)	225 (199/26)	240 (160/80)	2657 (2124 / 533)
1 日平均利用者数	11.0 (11.6/9.5)	11.0 (11.1/10.0)	10.6 (11.0/6.5)	10.7 (11.1/10.1)	9.6 (*/9.6)	10.2 (10.7/7.0)	10.7 (10.8/7.0)	9.5 (9.9/6.5)	10.8 (10.9/9.7)	10.1 (10.5/7.7)	11.3 (11.7/8.7)	10.9 11.4/10.0	10.5 (11.0 / 9.2)

カッコ内（平日／休日）

【登録者数】 30 名（高校生 17 名、中学生 9 名、小学生 4 名）

前年度からの変動は、「げんき」からの加入が 2 名。「デイサービスポレポレ」からの加入が 8 名。

2. 活動報告

利用者状況

法人内 3 事業所で運営してきた放課後等デイサービスを 2 事業所に縮小し、令和 6 年 3 月で「デイサービスポレポレ」を閉所。利用者を集約したことから、「えがお」としては登録者数が前年度の 20 名から 30 名に増え、定員 10 名を超える利用者を安定的に受け入れることができている。

全体での活動

基本的な活動の流れは前年度から引き続きクッキングや創作活動など全体での活動を取り入れて行っている。「デイサービスポレポレ」から高校生の利用者が 8 人増え就労へ向けた活動が求められるなか、集団での行動を意識して行った。

一方で「げんき」から小学生の利用者も加わっており、まだ意識して集団行動を取ることが

難しい利用者も多く、幅広い年齢層への対応が求められている。
　個人の特性としても、個別に活動を取り入れる必要がある利用者が増えてきており、ひとりひとりに合わせた活動を細かく取り入れていく必要性が出てきている。

グループでの活動

　自由時間という形で、各々が好きな活動を選択し庭遊びやカードゲームなど楽しめる活動も取り入れており、個別のニーズに応える時間も取った。身体を動したり、ゲームを通してルールを学ぶなど、楽しみながら課題に取り組む時間も作ることができた。
　しかし下校時間により余裕を持って時間を取れなかったり、小グループに分かれることでの職員配置が課題となっている。

3. 成果

利用者の確保

　「デイサービスポレポレ」が閉所となり「えがお」に利用者を集約したことから、定員 10 名の利用者を安定的に確保することができている。

活動環境の整備

　　以前に児童発達支援事業所「なかよし」で使用していた幼児用トイレスペースを使う対象者がいなくなったためトイレを撤去し、空いたスペースを個室として整備した。また庭に設置されているプレハブを活動スペースとして整備することで、グループごと空間を分けて活動できる環境を整えていった。

4. 見えてきた課題

職員体制の強化

毎日 10 名以上の利用者がおり、高校生も多いことから指導訓練室の活用の方法が課題となっている。部屋を分けたりプレハブを使う、パーテーションで区切るなどの方法は行っているが、ひとりひとりのニーズに対応していくためには個別に見ていけるだけの職員配置が必要になってくる。現在の体制では見落としが起きてしまうこともあり、十分に支援ができていない状況がある。

　職員体制が十分でないため有給や欠勤の職員がいると補充ができず、さらに体制が手薄なままサービスを提供していく状態が続いている。「げんき」から可能な場合はサポートをお願いし手伝ってもらっているが、それでも各職員への負担が大きく、休職する職員も出て各職員への負担がますます増加している。早急な体制強化が必要となっている。

休校日の営業

休校日の営業は、延長支援も含め朝 8:30 からの受け入れを行っており、10:00～17:00 のサービス終了後自宅への送迎を開始、帰着が 18:30 を超えることも多くなっている。休校日に職員配置が増えるわけではなく現状いる職員で対応しなければならないため、さらに厳しい体制が求められている。また、夏休み・冬休み等の長期休みは利用者数に大きな変化はないが、祝日や土曜日の営業については欠席する利用者も多く平均利用者数の割合を大きく下げる要因になっている。

特に土曜日においては利用者が 5 人未満になることがほとんどである。人数が少なくてもサービスを提供するためには必要な職員を配置しなければならないため職員の負担も増え、収入が少ない上に人件費もかかっている状況となっている。

車両の整備

送迎車に使用している車両が 3 台あり、うち 1 台は特に劣化が進んでエンジンの不調やエアコンが効かなくなるなどの状態になっている。福祉車両の助成事業に申請し、新しい車両を配備していきたい。

相談支援事業 Refine

1. 利用状況

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
相談件数		2	4	12	7	4	2	3	4	7	8	3	6	62
サービス区分	モニタリングのみ		4	10	3	1	1	2	4	7	3	3	4	42
	計画更新							1			4			5
	新規計画	2	1	2	4	3	1				1		2	16
区分認定調査				1	1	1				1	2		2	8

・令和 8 年 3 月 31 日現在　日進市障害者相談支援センター、日進市子ども発達支援センター、相談支援

MoMo より 28 名移行済み

計画相談：25 名、障害児相談：3 名

2. 活動報告

・社会福祉法人あじさいの会と共同で、相談支援事業が自立した運営をしていくために日進市と日進市議会福祉厚生委員会に対して補助金等の財政支援をしていただけるよう要望書を

提出した。現時点で財政的支援は難しいとの話だったが、『日進市における指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業に関する事業者間一体的管理運営のための協定』を結ぶことにより、機能強化型サービス利用支援費が算定できるようになった。事業所の運営基盤の強化を図るとともに、複数の相談支援専門員が連携することで情報収集や地域における質の高い相談支援体制を構築していくことができるようになった。

・計画相談の移行が一区切りついたところで障害児相談も数件ではあるが受けることができた。区分認定調査も 1 年で 8 件請け負うことができた。

3. 成果

・加算につながる研修を受講することで、専門性を持ったサービスの提供ができるようになった。
・法人内を利用している方の計画相談の6割が Refine に移行した。障害児相談も少しずつではあるが保護者の意向で移行される方が増えてきた。

4. 見えてきた課題

障害児相談も数件移行済みだが、日進市子ども発達支援センターからはポレポレの事業所を利用されている方は移行していきたい旨を伝えられている。しかし、現在の職員の兼務やヘルプ状況によりすべてを請け負っていくのは難しい状況。保護者の意向があれば受けていくが、他事業の人手が確保されなければ厳しい状況が続く。